

### 一般質問

#### 口蹄疫対策

問 下平正吾 議員



一般質問する下平正吾議員

この家畜伝染病は、法定伝染病の中でも最も恐れられているウイルス性の伝染病で感染力が強いものであります。

口蹄疫が北海道、本町に入って蔓延すれば、まさに日本の畜産物生産が壊滅状態になり、畜産生産者にも大きな打撃をうけ、農家経営も継続再生産が難しくなる。このような事態が起こらないよう未然に対策を万全に進めることが必要と考えます。特に野シカが保菌する事になれば大変な事態になります。

どのように未然対策をお考えか、ご所見をお願いいたします。

答 林 直樹 町長

口蹄疫に対する侵入防止対策としては、「オホーツク総合振興局口蹄疫侵入対策本部」から示されている対策に準じ、本町の畜産衛生推進協議会が主体となり防疫対策を講じているところです。

具体的な対策は、対象農家全戸に消毒用石灰を配布するとともに、靴底の消毒用マットを道の駅などの公共施設への設置、合わせて周知・協力呼びかけのためのポスター掲示、更には農家への訪問自粛といった対策を実施しているところでございます。

また、道内には野生のシカが推定52万頭生息しているとされており、この野生シカ対策につきましても、対策本部内に「野生シカ情報評価チーム」が設置され、道から任命を受けている鳥獣保護員や林業関係に携わる方に、万が一、口蹄疫の症状が疑われる野生のシカを発見した場合に、速やかに情報提供するよう指示が出されております。

このような中、これから本格的な観光シーズンを迎え、道内及び国内外から人の往来が増えることから、農業関係者の努力はもとより、関連する機関・団体、さらには来町される方々のご協力のもと、口蹄疫の侵入防止に万全を期していきたいと考えております。

#### 各種検診の受診率向上対策

問 和田 創 議員



一般質問する和田創議員

21年度の成人保健関係統計を見させていただきました。受診率の低さに驚きました。

近隣市町村も同様なので、どうか。また、何か対策を考えていますか。

答 林 直樹 町長

本町の各種検診ですが、健康の維持や疾患の予防及び早期発見を目的として、市町村国保が実施する特定健康診査をはじめとして各種がん検診を実施しております。

平成20年4月から実施している特定健康診査ですが、特定健康診査等実施計画では目標受診率を定めておりますが、ご指摘のとおり、目標受診率を10%程度下回っております。また、昨年国の補正予算で新たに創設された女性特有のがん検診推進事業に係る受診実績につきましても、概ね30%にとどまっている状況であり、それぞれの受診率はオホーツク管内市町村の中では概ね平均値であると認識しております。

従前より受診率の向上を図るため、自治会回覧、新聞チラシ、町の定める節目年齢者への無料受診案内の送付・未受診者への勧奨ハガキの送付、電話による勧奨など、様々な受診勧奨を行なっているところでございますが、今後におき

#### 子宮頸がん予防ワクチン接種について

問 和田 創 議員

ご存じのようにこの件につきましては、斜里町で今年度より中学3年生に対し全額公費負担で接種を決定したところであり、本町においても公費助成を求める要望書が提出されました。

このワクチンは非常に効果の高いもので子宮頸がん対策、また将来の医療費抑制のためにも一日も早く取り組むべきと考えますが所見を伺います。

答 林 直樹 町長

子宮頸がんは、ワクチン接種により「唯一予防できるがん」と言われており10代前半に接種すると7割以上のがんを予防できるとされています。

本町の子宮頸がんワクチン接種に係る公費助成につきましては、今後の国の動向にも注視する必要がありますが、中学1年生を対象とした正しい知識の健康教育を行いながら、ワクチン接種による子宮頸がんの予防を図るとともに、将来の少子化対策及び医療費軽減対策にもつながる事業として、平成23年度より接種費用を全額公費助成したうえで実施していきたいと考えております。

ただし、初年時となる平成23年度においては、中学1年生から3年生を対象として事業を実施するものとし、平成24年度以降は、中学1年生時にそれぞれ事業を実施していきたいと考えております。接種費用につきましては、1人当たり6ヶ月間に3回のワクチン接種が必要であり、

#### 福祉事業体制の強化

問 原田和幸 議員

4万5千円程度となるものでございます。実施にあたりましては、保護者及び小清水赤十字病院、その他関係機関と事前協議のうえ執り進めたいと考えております。

少子化にも関わらず既存の事業所や事業主の中では、若い労働力の吸収ができない現状があり、その一方で高齢化対策が急がれます。社会福祉協議会を中心とした、高齢者へのきめ細かなサービス強化は、若い労働力の雇用にも繋がります。地域経済対策にもなると考えますが、ご所見を伺います。

答 林 直樹 町長

社会福祉協議会において実施しております高齢者への福祉サービスの展開において、新たな労働力の確保によって、サービス利用者の皆さんに更

答 林 直樹 町長

乳幼児の細菌性髄膜炎に有効とされているヒブワクチンの接種につきましては、任意ですが、全国的な動向といたしまして、子宮頸がんワクチン及び肺炎球菌ワクチンと同様に接種費用を助成する市町村が増えている状況にございます。

問 原田和幸 議員

ヒブワクチン接種への助成措置が広がっておりますが、当町でも接種助成を行なう考えがないか、ご所見を伺います。

肺炎球菌ワクチン接種につきましては、高齢者がインフルエンザに感染した場合に、肺炎を併発して重症化することがありますが、その原因が肺炎球菌によるものが多いと

まして町民の健康を守るため、関係機関との連携を密にし引き続き努力して参りますので、ご理解頂きたいと存じます。